

はっぴい

第 75 号

編集・発行
白山高等学校PTA

印刷
伊藤印刷株式会社

2023.3

御 礼



日頃より、PTA活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年度も、新型コロナウイルスの影響で生徒・保護者の皆様には心配な日々が続きましたが、皆様のご協力により、制限はありましたが、体育祭、二年生の修学旅行、文化祭が無事に実施できました。

三年生にとっては三年目にしてやっと高校生らしい生活が経験できたのではないかと思います。校長先生をはじめ教職員の皆様には、三年間生徒たちをあたたく見守っていただき、心から御礼申し上げます。これからも笑顔の絶えない元気な高校生活を送れることを願っています。PTA会員の皆様におかれましては、ますます御壮健のことと存じます。また日頃より本校のPTA活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。そして、卒業を迎えられる生徒をお

PTA会長 畑 公之

持ちのご家庭の皆様におかれまして、三年間の高校生活を終えられ、晴れのお出迎えをいたしましたことを、心よりお慶び申し上げます。さて、卒業を迎える三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが白山高校で培ったことを糧に、希望を叶えるよう進んで行つ

てください。自分ひとりですべてを解決しようとするのではなく、ときには周りの人や家族の力を借りて進めば、どんな苦難が待っているようにと乗り越えられるはず。在校生の皆さんも、一年後、二年後のこの日のために、沢山の経験を積んで充実した高校生活を送ってください。

最後になりましたが、白山高校PTA会長として、多くの方にお力添えいただいたおかげで任務を無事終えることができ、厚く御礼申し上げます。今後の皆様のご健康とご多幸をお祈り致しまして挨拶とさせていただきます。

ご卒業おめでとうございます



PTA会員の皆様におかれましては、本校の教育活動に、ご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめで

校長 奥出博之

とうございます。心からお慶び申し上げます。卒業生のみならず、ご卒業おめでとうございます。白山高校で学んだ三年間は、振り返ってどうだったで

しようか。本校に入学した時期は、新型コロナウイルス感染症の猛威の影響を受け、自宅でプリント学習やインターネットを用いたりモット学習などが中心で、本来、学校で行う授業や行事とは異なる教育活動が中心だったことが、思い浮かぶと思います。この感染症はなかなか収束せず、学校だけでなく、社会全体の活動も大きく変えてしまうものであったことから、私は感染及びその拡大のリスクを可能な限り軽減でき、教育活動を継続・充実させることができるか、悩みました。そのような中、生徒たちのマスクの着用・黙食・手洗いなどの協力のおかげで、校内での感染拡大は抑えられており、本校の教育活動を、コロナ禍以前の状態に戻すことができると確信しました。結果として、地域と協働した教育活動のインターネットシッブ、実習、清掃活動だけでなく、体育祭、文化祭をはじめとする多くの学校行事を、安全に実施できました。秋に実施した文化祭では、一五〇名もの保護者やその家族の参加があったことや、生徒が協力して行った体育館での発表や模擬店の運営などに、笑顔で取り組む様子も見られ、嬉しく思うのと同時に、改めて授業や学校行事を行う大切さを実感した一年でした。卒

業生のみなさまには、白山高校で過ごした日々が、素晴らしいものだったと思っただけであれば幸いです。さて、二学期の中頃のことです。いつもいる校長室を出て、教室などで学ぶ授業を見に行きました。覚えていますが、国語の授業で、「人間万事塞翁が馬」を題材にした授業でした。これは一見、不運に思えることが幸運につながったり、その逆だったりすることをたどっていて、「幸運か不運かは容易に判断が難しい」という中国の故事に由来します。これからの長い人生では、楽しいことや嬉しいこともあれば、辛いことや悲しいこともありませう。しかし、何が幸福で、何が不幸かは、すぐに決まるものではありません。時にはやりたいことができず、会いたい人に会えない、そのような日々が続くこともあるかもしれません。それでも工夫したり、知恵を絞ったりして、自分のできることを、一生懸命に取り組むことこそが大事であり、これから人生で、経験することには無駄なものではなく、嬉しいときこそ浮かれず、悲しいときには、将来必ず幸せが訪れるものと信じて、毎日を明るく元気に過ごすことが大切です。これを、門出に際しての「はなむけ」としたいと思います。卒業生の皆さま

んの将来に大いに期待しています。最後に、卒業生の保護者の皆様におかれましては、この三年間、楽しいことだけでなく、辛いこと、辛いこともあったかと思えます。しかし、どんな時にも変わることをなく、本校に對しまして、深いご理解とご協力をいただきました。本校職員を代表し、心より感謝申し上げます。あ



りがとうございました。皆様の益々のご健勝と、ご多幸をお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。

第七十一回全国高等学校PTA連合会大会石川大会に参加して

校長 奥出博之

石川県金沢市で開催された、全国高等学校PTA連合会主催の全国大会に、令和四年八月二十五日〜二十六日、PTA本部役員の伊藤様、鈴木様と参加した。今年度の大会メインテーマは、「輝く未来への礎」だった。このテーマは、若者が抱える課題として、以前から「自己肯定感が低い」「消極的で内向き志向」といった点が指摘され、このことを解決するための方策として、「保護者である親自身が、まずは子どもたちに真剣に向き合い、子どもの自立に最も責

任を負うべき」との考えに基づき、策定されている。そして、親が希望の持てる未来社会へのビジョンを持ち、自らが「輝く未来への礎」となって、主体的に行動できるようになることを大会の趣旨として、開催された。大会一日目は、地元の高校生の盛大なアトラクションによる歓迎を受け、開会式・表彰式が行われた。表彰式では白山高校PTAの取り組みが、生徒の健全育成と地域の高等学校教育の振興に多大な貢献があったとのことから、会長から表彰を受け

た。その後、私たちは四つある分科会のうち、高校生を持つ親がどのようになり、我が子の成長と向き合い、寄り添っていけばよいかを考察する第一分科会に参加した。この分科会は、「新時代の家庭教育」をテーマとし、「今、伸ばすべき本場に必要能力」を考えさせられるお二人の講演を拝聴した。最初の方は、慶応大学教授の中室牧子さんによる、「教育に科学的根拠」を演題とした講演だった。中室さんは、「大人の先入観によって行われる教育は、本当に正しい教育なのか。」と疑問を持った。例えば、「優秀な学校に進学すれば、将来多くの収入を得ることのできる人生を送れるか。」また、「成績の良い友達がいるクラスに我が子がいれば、我が子の成績に良い影響を与えるか。」などである。これらの疑問に対して様々なデータを分析し、このデータに基づき、次の世代を担う子どもたちに必要な育成方法を研究されている。研究結果によると、大人が考える子どもたちにとって良いと思われる教育は、必ずしも良い影響を与えず、やはり子どもたちが「楽しい」「面白い」といったモチベーションをあげることこそが、良い人生を歩め、多くの収入を得ることができることであつた。そのため、子どもたちの学習成

績を他校や他人と比較するのではなく、これまでの自分と、今の自分とを比較し、努力の結果から自己肯定感を高揚する方が、良い結果につながるのと結論に至った。加えて、白山地域の地域力に支えられている本校にとって地域力が高いことは、子どもたちに良い影響を与えるというアメリカでの研究結果も興味深かった。続いて、花まる学習会代表の高濱正伸さんによる、「思春期の親だからできること」を演題とした講演だった。講演の中で、「我が子のためにと思う親の家庭での言動が、良くも悪くも、子どもの成長に大きく影響を与え、過干渉になる傾向にある。」と語られた。そのことから、思春期の子どもの持つ親は、我が子に積極的にかかわることより、外の師匠にまかせることや、心を許して話せる人を見つけてあげることが大切であり、「誰にまかせようか」が、親の一番の仕事であるとのことであった。特に、親が我が子に「やりなさいを多用するのは、止めなさい。」が印象的だった。我が子が自ら多くの人と関わり、楽しいと思うことにのめりこむことこそが、大きく成長させる秘訣のこととだった。我が子に関わりたい親の気持ち察すると、親子関係を築く難しさを改めて考えさせられた。

大会二日目は地元の高校生によるアトラクション後、大会の記念講演として、地元石川出身であるファミリーマート顧問(前副会長・元社長)の澤田貴司さんによる、「やりたいことをやる」を演題とした講演を拝聴した。地元石川で誕生した澤田さんは、あいさつなど、人としての在り方に厳しい父親を持つ家庭で、幼少期から大学に進学する思春期まで地元で過ごした。この父親から、自分のためにする行動「利己」より、人ために尽くす行動「利他」が大切であることを学んだ。父親の葬式の際、故人を偲び参列された多くの方が、生前の父親の行いに感謝する光景を目の当たりにし、感謝される人になりたいと思っただ。澤田さんは、このことから「利他」に努めると、「利己」につながることに気がついた。高校卒業後、上智大学に進学し、伊藤忠商事へ入社、企業買収などに携わることになる。しかし、根底にある「誰が正しいか」より、「何が正しいか」を追求する自ら考え方と、企業の経営方針に違和感があり、ファミリーテイリング(現ユニクロ)に転職するなど、多彩な経歴や経験を持つ人物である。ひとりでも多くの人を「物心両面」で幸せにする、「利他」の精神を貫き、大企業となった



ファミリーマートでも、その信念を曲げず経営されているとのことであった。その他にも「思春期に形成された人格は、その人の人生に大きな影響を与える。」と熱弁されたことや、「やりたいことをやる以上、責任はすべて自分にある。」との並みならぬ決意が、心に残る講演だった。二日間を通して、サブテーマになっている「親から始める新時代の教育」を考へるにあたり、家庭や社会の構造がどのように変化しても、人への思いやりの心や、主体性の育成などが原点にあることを、会場一致で認識できたように感じた。コロナ禍で行動制限もあるなか、次の世代を担う子どもたちの成長のために、家庭、地域や学校と連携した教育の必要性を改めて実感し、帰路についた。

■ 三学年主任より

「卒業おめでとうございます。みんなの三年間ははどうでしたか?」「三年間で一番印象に残っていることは何ですか?」。面接練習の質問と同じですが、私は、このことが自分自身にとって未来につながる一番大切なことではないかと思えます。

面接練習では、「友人が多くできたことです。」「クラブの大会でたくさんの方が応援に来てくれたことです。」「などと答えてくれた子もいました。」

それぞれ、思い出される自分にとって「一番、心に残っていること...」その中のどこかに自分がやりがいを感ずる何かがあるのではないのでしょうか? 楽しかったことが思い浮かぶ人も多いかもしれません。しかし、なにかそこに少し苦しかったことや頑張った事が含まれていないでしょうか? 友人関係にしても相手のことを理解しようと真剣に考えたり、自分の考えをわかってもらおうと努力したことがあるのではないのでしょうか? また、何かに挑戦して「つらいことや苦しいことがあったけど、一生懸命にやったことで、なぜか心がすっきりして力がわいてくる」そんな出

来事はなかったでしょうか? 自分自身が思っていたような結果にならなかつた事も多くあったかもしれません。しかし、次になんとか工夫してチャレンジしていく、その積み重ねが必要だと感じます。自分が「心を動かされること」であれば、すぐにあきらめてはだめだと感じます。何年もの時間がかかるかもしれないし、自分の努力だけではどうしようもないこともあります。

しかし、自分のふがいなさを悲観したり、うまくいかないことを周りの環境や他人のせいにしても何も解決しないと思えます。

反省する事は大切ですが、まず自分を大切にし、自分と係わる周りの人々を本当の意味で大切にしていくな事が必要ではないかと考えています。また、自分の周りにより多くの人たちの存在がある、ただそのことだけでも自分自身の力になっていくと思えます。SNSの普及で他者との距離が近くなったようで、現実はずらくなってしまっている気がします。これからの生活の中で、できる限り生身の人(いいところも悪いところもある)との直接の関わりを多く持つてほしいと思えます。自分一人で行えることは限りがあります。これからの人生の中で、自分たちの目標に

向かって周りの人と助け合い、時に良きライバルとして、様々な事に挑戦していつてほしいと思えます。最後になりますが、保護者の皆さまにはこの三年間、深い愛情をもって子どもたちの白山高校での教育活動をご支援いただき本当にありがとうございます。私たちが教職員の何よりの助けになったことを感謝しております。

■ 生徒会より

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染から三年度を迎えた本年度ですが、ワクチン接種も進んだおかげで、制約を受けながらも様々な生徒会活動を行うことができました。四月に新入生との対面式、五月に高校総体の壮行会、六月に体育祭と家城地区クリン作戦、七月にクラスマッチと野球応援、十一月に文化祭、十二月に芸術鑑賞とクラスマッチを実施することができました。三月にもクラスマッチを行う予定です。

特に文化祭は「つなごう新時代へin白高祭」をテーマに、三年ぶりに模擬店を実施しました。保護者ご家

族を対象とした限定公開ではありましたが、多数の方々にご来校いただき、生徒たちの生き生きとした様子を見ていただけたと思います。模擬店だけではなく、舞台発表や展示・装飾部門においても、日頃の成果の発表に張りましました。特に、今年公開ということ、三年生は正門の装飾に、茶道部や美術部、書道部などの文化部、各クラスや各授業の生徒たちは創意工夫を凝らした展示や実演などで大いに盛り上げてくれました。文化祭後のアンケートでも「楽しかった」「見に来てもらって嬉しかった」という感想が多く見受けられました。

十二月には、三年に一回の芸術鑑賞会を本校体育館で開催しました。パントマイムやダンスなどのパフォーマンスを中心に言葉を発表しない演劇「パベツション劇」と、プレイクダンスの「しよぎよーむじょーブラザーズ」の二本立ての九〇分公演でしたが、生徒たちの感想のほとんどが「とても良かった」「すこかった」「感激した」と大好評でした。

生徒会活動としては、生徒会役員と生徒会顧問で毎朝、通学路のゴミ拾い、校門での挨拶運動を引き続き実施しています。また、中学生対象の「高校生活入門講座」では毎回、学校を代表して学校紹介や校内案内



に活躍しています。

新型コロナウイルスの終息が見えない日々ですが、生徒会として出来ることに最大限に取り組み、生徒の皆さんに少しでも充実した高校生活を送ってもらえるように努力していきたいと思っています。

今後とも、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

■ 国語科より

本校では「学校設定科目」として、「パブリックスピーキング」という科目を普通科二年生に設けています。

従来の「読み・書き」を重視した国語教育に、「話す・伝える」要素を加えるものです。

授業ではテーマに基づいて発表原稿を作り、六〇〇字程度の発表を行います。今回は二期に実施した「思い出の品」というテーマから、ある生徒の作品を一部紹介します。

この包丁は、僕が魚を捌くのに使っている包丁です。中三の時に「自分で魚を捌きたい」とお母さんに言って買ってもらいました。出刃包丁といって、魚をおろしたり骨を叩き切ったりするのに使います。

お母さんは家族が釣った魚をよく捌いていてとても詳しく、姉も調理師の資格を持っているので、二人からアドバイスをもらえて嬉しいです。三枚おろしのコツ、腹骨の取り方、皮のひき方など色々教えてもらいました。一番難しかったのは三枚おろしです。包丁の角度に気を付けなければ、骨に魚の身が残るし、包丁を入れる回数が増えると切り身の表面がボロボロになってしまいます。また、刃先だけで切るのではなく、刃の全体で弧を描くように動かさなければ、これも切り身が綺麗になりません。また、これだけを意識し過ぎると他の部分でミスをしてしまいます……(後略)

この発表は非常に具体的に、自ら

の経験によってしか得られない内容で述べられており、聴く生徒たちの集中力が一気に高まった秀作です。

ともすればSNS上で極短文のやり取りに終始する今の若者たちですが、このような「工夫して話した結果、自分の思いが相手の心を動かした」喜びを味わうことで、日頃何気なく使っている言葉の重み、大切さ、気付いてくれれば、と考えています。

生徒たちの感性や基礎学力をさらに伸ばせるよう、今後とも国語科として様々な場面で支えていきたいと思えます。



■ 野球部より

卒業生、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今年の卒業生の皆さんは、新型コロナウイルスの影響により制限の多い中で活動を余儀なくされた学年でした。新チームでの秋季県大会は、一斉休校に伴う大会日程の変更もあり、思うように活動ができません。公式戦となりました。地区予選では決勝で津商業高校に破れ、県大会でのリベンジを決意しましたが、十

分力を出し切れないまま再び負けてしまいました。自分たちの弱さを痛感し、たくさんの課題と悔しさが残る大会になりました。

その後、自分たちに足りないものを見つめ直し、練習や試合を重ねていきました。その中でも、十一月の横浜遠征は貴重な経験となりました。遠征中は惜敗することが多く悔しい思いをしましたが、全国レベルの高校とも渡り合える力を持っていることに気付くことができる機会になりました。その希望と悔しさを胸に、厳しい冬の練習を乗り越えて迎えた春の中地区予選。この大会から地区割りが変わり、新しい地区予選のスタートとなりました。県大会では、対戦校を圧倒し準決勝まで勝ち上がりました。準決勝の津田学園戦では、残念ながら万全の状態では臨むことができません。東海大会出場を決める決定戦も出場辞退となりました。仕方がない、前を向いて進むしかない、悔しい気持ちをこらえ、最後の大会にすべてを懸けることを目標に、個人・チームの課題克服のために練習に励みました。

そして迎えた三年生最後の夏、第一〇四回選手権大会三重県大会。スタンドには多くの保護者の方や友達、学校関係者が応援に駆けつけ声援を

送ってくれました。一回戦は四日市

四郷・石薬師・あけほの学園の連合

チームと対戦。緊張もあり動きが

たく、不安な試合運びとなりました

が、10-0で6回コールド勝ちとい

うスタートとなりました。二回戦で

は明野高校に11-1で勝利。むかえ

た三回戦では海星高校と対戦。初回

に先制されるも、2回に追いつき、ま

た離され、8回の攻撃を迎えたとき

には1-5と離されていました。し

かしこの回に5点を取り逆転に成功

も勝利目前で海星高校も同点に追

いつき延長戦に入りました。その後

も取って取られて、最後は7-9で負

けてしまいました。ミスもあり、ナ

イスプレーもあり、手に汗握る試合

になりましたが、選手たちの三年間

のすべてが出し切れた、すべてが凝

縮された感動的な試合だったと思

います。

今がまさに、「人生のプレイボー

ル」です。白山高校グラウンドでの

経験を糧に、高校での多くの出会い

を大切に、次のステージに大き

く羽ばたいてください。

最後になりましたが、保護者の皆

様、地域の皆様には、野球部の活動

にご理解ご協力を賜り、誠にあり

がとうございました。今後とも、白

山高校野球部をよろしく願います。

《公式戦 戦績》

第七十四回秋季三重県大会 中勢地区予選

一次予選

一回戦 白山 11-0 津東

二回戦 白山 7-0 津

決勝 白山 0-11 津商

二次予選

三回戦 白山 6-9 高田

三次予選

一回戦 白山 10-0 津工業

決勝 白山 6-0 久居

(代表決定)

三重県大会

一回戦 白山 7-3 上野

二回戦 白山 2-9 津商

第六十九回 春季三重県大会 中地区予選

一次予選

一回戦 白山 3-0 近大高専

二回戦 白山 10-0 稲生

三回戦 白山 0-10 津商

二次予選

一回戦 白山 9-1 津西

(第三代表決定)

三重県大会

一回戦 白山 11-0 相可

二回戦 白山 11-1 松商

三回戦 白山 8-0 いなべ総合

準決勝 白山 0-4 津田学園

第一〇四回 選手権大会 三重県大会

一回戦 白山 10-0 瑞穂 瑞穂 あけほ

二回戦 白山 11-1 明野
三回戦 白山 7-9 海星

陸上競技部より

三年生の皆さん、ご卒業おめでと
うございます。

陸上競技部としての活動を行なっ
ていく上で、三年生にとっては今ま
でに無い困難な状況の連続だったよ
うに思います。コロナウイルス感染
拡大の影響で、入学式を終えるとす
ぐに二ヶ月間の自宅学習という制限
がかかり、チームで集まっていた練
習なども満足にできませんでした。
ハイやその他の競技会が軒並み中止
になったり、無観客や出場制限が設
けられたり、様々な制限がかかった
中で、様々な活動となりました。そ
んな中でも弱音を吐かず、ひたむき
に努力し続けた三年生の姿からは、
指導する側である私の方がたくさ
んのことを教えてもらい、一緒に陸
上競技ができたことが本当に幸せ
だったと感じています。

また競技の面でも三年生として立
派に活躍してくれました。
男子円盤投で県春季6位入賞
(初)・県総体7位入賞(初)・県選手
権4位と5位のW入賞(初)・名張市
競技会で自己新をマークし走幅跳

ロックとして初めての五位入賞を果
たすなど輝かしい実績を残してくれ
ました。

その競技実績や、競技に取り組む
姿勢からは後輩たちも多くのことを
学んだと実感しています。三年生が
引退してからも、二年生女子が砲丸
投で東海新人8位に入賞したり、四
月から陸上競技を始めたばかりの一
年生男子が円盤投で県新人7位に入
賞するなど、先輩たちが積み上げて
くれたものは確実に引き継がれてい
ると強く感じました。

私が白山高校に赴任して八年目に
なりますが、シーズンを通してこれ
だけ複数の選手が大きな大会で入賞
し続けているというのは初めての経験で、
本当に驚いています。

もちろんこれらは陸上競技部だけ
でなく、三年生の皆さんが作ってき
てくれた学校の雰囲気、保護者の方
や応援して下さった先生方・仲間
の協力、指導も含め様々な面でサ
ポートをしてくれたOBの存在があ
つてのことだと考えています。

「立てた目標は何のためにあるの
か?」「この目標を達成すると誰が
どんな風に喜んでくれるのか?」と
いった目的の部分にまで考えを広げ、
プラスの言葉を出し、チーム全体が
今まで以上に向上していけるよう頑

張っていきます。
白山高校陸上競技部は、これから
も応援し続けてもらえるようなチー
ムを目指します。
三年生の皆さん、白山高校で学ん
だこと・継続してきたことを自信に
して、これからの人生も頑張っ
て下さい。ありがとうございます。
今年度の主な大会成績など
・三重県高等学校陸上競技春季大会
男子円盤投 6位 奥川 翔也 (三年三組)
女子砲丸投10位 晴山由佳理 (二年一組)
・三重県高等学校総合体育大会
女子砲丸投 6位 晴山由佳理 (二年一組)
男子円盤投 7位 奥川 翔也 (三年三組)
男子円盤投13位 伊藤 稜弥 (三年三組)
・東海高等学校総合体育大会
女子砲丸投 17位 晴山由佳理 (二年一組)
・三重県陸上競技選手権大会
少年 男子円盤投 4位 奥川 翔也 (三年三組)

張っていきます。

白山高校陸上競技部は、これから
も応援し続けてもらえるようなチー
ムを目指します。
三年生の皆さん、白山高校で学ん
だこと・継続してきたことを自信に
して、これからの人生も頑張っ
て下さい。ありがとうございます。
今年度の主な大会成績など
・三重県高等学校陸上競技春季大会
男子円盤投 6位 奥川 翔也 (三年三組)
女子砲丸投10位 晴山由佳理 (二年一組)
・三重県高等学校総合体育大会
女子砲丸投 6位 晴山由佳理 (二年一組)
男子円盤投 7位 奥川 翔也 (三年三組)
男子円盤投13位 伊藤 稜弥 (三年三組)
・東海高等学校総合体育大会
女子砲丸投 17位 晴山由佳理 (二年一組)
・三重県陸上競技選手権大会
少年 男子円盤投 4位 奥川 翔也 (三年三組)

少年 男子円盤投 5位 伊藤 稜弥 (三年三組)
少年B男子円盤投 5位 宮田 和平 (二年一組)
名張市競技会
男子走幅跳 5位 中山 正喜 (三年二組)
・三重県高等学校新人陸上競技大会
女子砲丸投 5位 晴山由佳理 (二年一組)
男子円盤投 7位 宮田 和平 (二年一組)
・東海高等学校新人陸上競技選手権大会
女子砲丸投 8位 晴山由佳理 (二年一組)

ロナウイルス感染症対策に気を配り
ながらの活動となりましたが、生徒
たちは柔軟に対応し、遅く成長し
ています。また、今年度の試合もす
べて無観客で行われ、入場時の検温
や手指消毒の徹底、応援は拍手のみ
で行うなど、以前の試合風景からは
様変わりしました。しかし、このよ
うな制限下であっても、予定されて
いた試合がすべて開催され、出場で
きたことは、生徒たちの励みとなっ
ています。十二月には三重県高校新
人卓球大会地区予選会に出場し、三
名が地区予選を突破することができ
ました。現在は、県大会に向けて
日々練習に励んでいます。この地区
大会での勝利には、本人の努力のみ
ならず、保護者の方からのご支援、引
退した三年生の部員との練習の積み
上げがあったことは言うまでもあり
ません。

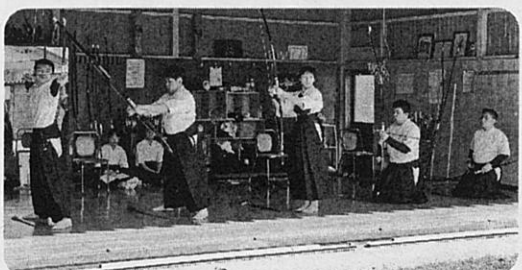
弓道部より

三年生の皆さん、ご卒業おめでと
うございます。保護者の皆さまには
弓道部の活動へのご理解・ご協力を
いただき、ありがとうございます。
今年度も、新型コロナウイルス感
染症対策に留意しながらの活動とな
りました。大会では、無観客試合の
ために保護者の方々にご来場いただ
けなかったことや、一年生が大会の
雰囲気をつかめないままに公式戦に
出場せざるを得なかったことなどが
とても残念でした。そのような状況
でも、選手は「いつも通りの射をす
る、全力が出せるように頑張る」を
目標にして、一試合ごとに力を尽く
していまし

ました。その成
果は県総体
男子個人戦
での決勝進
出や、女子
団体が新人
大会地区予
選で入賞し、
県大会に出
場できたこ
となどに、
少しずつ現

卓球部より

三年生の皆さん、ご卒業おめでと
うございます。保護者の皆様には卓
球部の活動へのご理解・ご協力を
いただき、誠にありがとうございます。
現在、卓球部は男子五名が、少人数
ながら練習方法を工夫し、活動して
います。昨年度に引き続き、新型コ



れているように思います。また、十一月に実施された文化祭では、三年ぶりの公開となり、日頃の練習の様子や団体戦を再現した「立」を見ていただくことができました。今後も、応援して下さる方々への感謝の気持ちを忘れず、一つずつ目標を達成できるように活動を続けていきます。三年生の皆さんは弓道部での経験を活かし、これからも活躍していきましょう。

吹奏楽部より

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度も引き続き限定的な演奏活動となりました。

三年ぶりとなった夏の野球応援は、在校生にとっては全員が初めての経験となりました。真夏の空の下、試合展開に沿って、また野球部の応援団と息を合わせて演奏する感覚はライブ感にあふれ、まさに青春を体感でき



る一幕でした。

十一月に開催された文化祭では、東京スカパラダイスオーケストラのノリノリの一曲に始まり、ディズニーアニメメドレー、ジブリアニメメドレーと、誰もが口ずさめるものを選びました。部員四名に顧問三名という少人数バンドながら、体育館の隅まで届くように出来る限り大きな音で演奏を行いました。

ただ、現在は三年生が引退し、一年生部員がいない状況で、来年度の活動が充分に行えるかどうか危ぶまれる事態です。来年度はたくさんの方の吹奏楽部の門を叩いてくれることを期待しながら、四月のクラブ紹介を目標に、今日も地道に練習を重ねています。

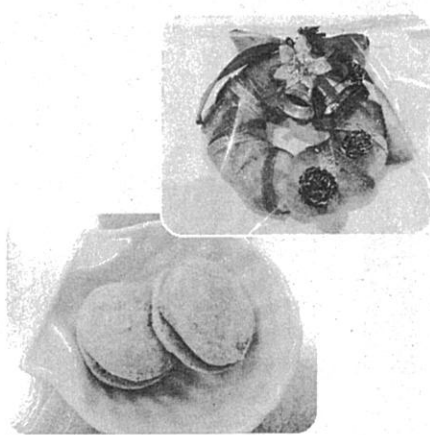
家庭部より

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが入学した時、ちょうど新型コロナウイルスの影響により入学式後すぐ休校という状況でした。新しい環境に慣れる間もなく休校となり、不安いっぱいの中での高校スタートでした。このような中で始まった高校生活、楽しい行事にも制限があり、たくさん我慢したことでしょう。

家庭部の活動もなかなか調理はできず、刺繍をしたり、レジンでアクセサリーを作ったりし、感染状況の落ち着いた頃に少しづつお菓子作りをするという活動でした。

ようやく今年度は文化祭も公開となり、クリスマス会をテーマにお菓子作り



りのレシピ紹介やパンリースを作って展示することができました。三年間の思い出の一つにできたかな。

本来ならもっと様々なことにチャレンジできたはずの三年間だったかも知れません。でもこのような状況の中で、今できることに一生懸命取り組み努力した皆さんは、きっとこの先、様々な困難にであつても、今できることを考え一歩一歩前を向いて進んで行つてくれると思います。少ししんどいな、疲れたなと思つたときは高校生活での楽しいことを思い出して、家庭部で作った甘いSWEETSを作ってみてくださいね。疲れがとれるかも知れません。

皆さんと過ごした三年間でのクラブ活動、先生もたくさんみなさんから学ばせてもらい、楽しませていただきました。ありがとうございました。また、時間があるとき白山高校へ遊びに来てくださいね。お待ちしております。

商業部より

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今年度の商業部では、津市商工会白山支部青年部の方達と、同じ白山町内にある、青山高校さんと地元白

生徒指導部より

「卒業にむけて」

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは高校を卒業したとしてもまだまだ思春期の中。自分がどう見られているのか、悩んだり、信じたり、疑ったり。また家族とぶつかったり友達と喧嘩したり、誤解をしたり…

そんな時、つらいからといってそこから逃げることは簡単なことかもしれないけれど、逃げる余計に辛くなるものです。一番大切なことは、自分に正直でいること。そして、大切な人ときちんと向き合うことです。

卒業という言葉、卒とは「おわる」、「おえる」という意味で、業とは「なすべきこと」、「しごと」を意味します。つまり「業を卒(お)える」という場で、「なすべきこと」をなし、それをやり終えること、やり終えたことを指します。

この三年間、頭髪指導や遅刻指導等、「めんどくさい」「うざい」と思った人も多かったと思います。しかし、来月からは今までは、また違う「ルール・マナー」があると思います。そういうことに対してプラスに考え、

山地域の特産品を使って、商品開発を行うプロジェクトに参加して、大変活躍してくれました。

開発する商品が、「クラフトコーラ」に決定すると、白山地域の特産品としてお米を原材料にすることを決めました。米のまま原料とするのか、米粉にして原料として使用するかを決めるために、試飲アンケートを津まつりに出店して実施し、二日間でのべ一、〇〇〇名を超える方に試飲協力を頂くことが出来ました。

結果は、米、米粉と人気に甲乙付けがたく、協働した青山高校さんと両校のバージョンとして二種類の販売を決め、各校それぞれのラベルデザインを決め商品ラベルシールの作成商品への貼り付け作業を行い、製品を完成させる事が出来ました。「白山コーラ」と命名されたクラフトコーラは、学校そばの「やまちよう」さんや、「大三モーターズ」さん、「ミエナカオンラインショップ」さんなど、白山町内のお店で取り扱ってもらうこと



で、町内外に白山地域の魅力を発信する一助となっています。

今回の一連のプロジェクトを通して、白山町内の様々な職種の方と協力して完成する中で、教員以外の多くの大人の方と一緒に仕事が出来た事は、皆さんにとって大変な刺激になったと思います。イベントの始まりには、みんなが挨拶を元気にしている姿や、会議においてはみんながしっかりと意見を出して、時には人と意見が違っても、自分の意見をしっかりと伝えて、いい物を作るために話し合う体験は、通常の学生生活では得ることの出来ない財産になり、きっと皆さんの人生を豊かにしてくれることでしょう。卒業後の様々なステージで、白山高校で学んだ事を胸に頑張っていって下さい。

茶道部より

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

茶道部は近年、感染症予防のため校外でのイベントに参加できませんでしたが、今年度は文化祭で、久しぶりに呈茶を行うことができました。校内外の方々にお抹茶を楽しんでいただく機会がしばらくなかったため、



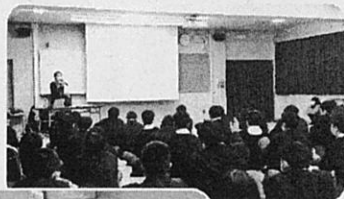
保健部より

日頃より、お子様の体調管理、および感染症対策につきましてご協力をいただき、心から感謝いたしております。今年度も保健部では、感染症対策をとりながら、保健講話を実施しました。本校スクールカウンセラー田

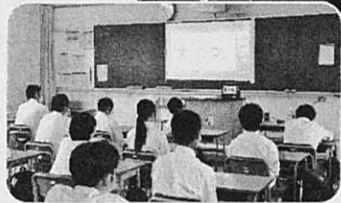
うということもよく耳にします。家族や会社の上司などからの支援を得ながら社会人として自分の人生を切り拓いていってくださることを心から願っています。また、進学する人も自分で選んだ道を追求していかれることを願ってやみません。

それでも悩んだり苦しんだりしたときは、辞める前に誰かに相談してほしいと思います。進学先や就職先にも見てくれている人は必ずいます。進路指導部も同様です。保護者の皆様も、本人が何か苦しんでいる様子がありましたら「白山高校へ行って相談してみれば」と勧めてやってください。

卒業生の皆さんが、自分の能力を十分に発揮するとともに、在校生やその先の後輩たちのための力になってくれることも期待しています。これからの活躍を祈ります。



保健講話



SC オンライン講話

中二美先生には、全校生徒を対象に三回の講話をしていただきました。全国的に新型コロナウイルス感染症が猛威をふるった七、九月はオンラインで、十一月には対面形式で実施し、こころや身体のない状態をつくりだす神経系の仕組みやイライラ、不安、心配を取るための呼吸法などを教えていただきました。また、性に関する講話として、七月には三年生を対象に助産師の林みち子先生、一月には一年生を対象に、思春期保健相談士の中谷奈央子先生をそれぞれ講師にお招きし、性の多様性やデートDV、妊娠、出産など幸せに生きていくために必要な性の知識を教えてくださいました。三人の先生方の講話に共通していることは、「自分を大切にできる力」、「他者を尊重できる力」、「困ったときに相談でき

る力」を身につけることが大切であるということでした。三年生にとっては、いずれも高校生活で最後の機会となりましたが、卒業後も先生方の教えを胸に幸せな人生を送っていただきたいと思えます。一・二年生の皆さんに

他校との合同ポスタープロジェクト

「岐阜県立明知高校」×「静岡県浜松学芸高校」

×「白山高校」



本校は地域の課題を発見し、地域の持続的な発展に貢献できる生徒の育成に取り組んでいます。そのうちのひとつとして、三年前から「名松線勝手に応援団」を立ち上げ、名松線をPRするポスター制作に取り組んできました。

今年度、岐阜県立恵那南高等学校からポスター制作活動についてノウハウを聞き取ったの依頼があり、最初はオンライン交流会という形をとって両校の生徒の交流が始まりました。以前から交流のある静岡県

は、引き続き充実した高校生活を送ってもらうためにも、三つの力を育てていけるような内容を今後もお伝えしていければと考えています。今後とも、保健部の活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ポスタープロジェクトについて相談をもちかけたところ、三校が合同でポスター制作をする運びとなりました。

三校合同プロジェクトは、令和四年の十二月十日～十一日にかけて行われ、本校の三年生三名が岐阜県恵

進路指導部より

応援される人間になってほしいと思っ

て、指導をしてきたつもりです。

保護者の方やお世話になった方たちへの感謝の気持ちと、これからの自分の人生への覚悟をもって、気を引き締めてこれからも生きていってください。白山高校での「なすべきこと」を卒(お)え、そして次の「なすべきこと」に向き合ってください。

長い人生です。まずは健康第一で、頑張りましょう！また元氣な姿を見せて来て下さい。

ご卒業おめでとうございます。

今日まで保護者の皆様には、進路指導部の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年も、コロナウイルスに苦しまされるが多かったですが、三年生の就職のスケジュールは例年通り行われ、就職試験を迎えました。就職においては、製造業を中心に概ね求人は回復し、三年生は夏休み明け以降、しっかりと取り組みが見られ、結果も順調に推移しました。また進学においても、入学後の意欲と学習計画、将来の展望を明確に示すよう求められるこ

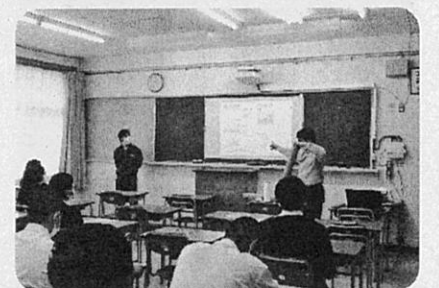
とが増えましたが、まだ一般入試に向けて奮闘中の生徒はいるものの、志望をかなえることができました。

今年度の三年生七十四名のうち、すでに決定した進路先は下記【表1】の通りです。例年と傾向は変わっていません。就職は、ほとんどの生徒が自宅から通勤できる事業所に内定しました。進学は総合型選抜(旧「AO入試」)学校推薦型選抜(旧「指定校推薦」など)によるものがほとんどです。進学では、これまでほとんど進学者がなかった福祉系の短期大学への入学者が、総合型選抜で四名出たことが特筆されます。本人たちの努力と、担任・教科の先生方の的確な指導、保護者のサポートなどが実を結びました。また、近年、指定校推薦以外での四年制大学への進学も出てきています。部活動での活躍を活かし、スポーツ方面へ進学することは以前からありましたが、教育学部への進学生徒も出ました。また大学共通テストや、一般入試にも臨もうとしたりする生徒もおります。

卒業式を迎えたこの時期は、ある意味で大事なスタート地点だと進路指導部では考えています。特に就職する人は、あらゆることが目新しく、慣れない人間関係(周りが同世代の人たちばかりではないこと)に戸惑

【表1】3年生の進路先

<大 学>	○大阪学院大学	○皇學館大学	○名古屋商科大学	○四日市大学
<短期大学>	○鈴鹿大学短期大学部	○第一幼児教育短期大学	○高田短期大学	○奈良佐保短期大学
	○ユマニテク短期大学			
<専門学校等>	○伊勢保健衛生専門学校	○伊勢理容美容専門学校	○大阪ビューティーアート専門学校	
	○大原法律公務員専門学校	○名古屋ECO動物海洋専門学校		
	○名古屋医健スポーツ専門学校	○名古屋観光専門学校	○ミエ・ヘア・アーチストアカデミー	
	○三重県立津高等技術学校	○三重調理専門学校	○ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	
<就 職>	○AGC グラスプロダクツ株式会社 久居工場	○SWS 西日本株式会社	○井村屋株式会社	
	○オプト電工株式会社	○株式会社ウッドベル	○株式会社おやつカンパニー	
	○株式会社サンヨー	○株式会社中尾製作所	○株式会社永谷園フーズ オクトス工場	
	○株式会社ナベル	○株式会社ニシタニ	○株式会社ニチリン白山	
	○株式会社日新化成製作所 多気工場	○株式会社ライジング 明和工場	○山九株式会社 三重支店	
	○新生電子株式会社 松阪工場	○住友理工株式会社	○田中紙管株式会社	
	○特別養護老人ホーム ときの音色	○トヨタ車体株式会社		
	○ニプロファーマ株式会社 伊勢工場			
	○本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所	○松阪興産株式会社		
	○社丸豊技研株式会社 三重工場	○三重中西金属株式会社		
	○山川モールディング株式会社			
	○株式会社ホンダオート三重	○株式会社大興		
	○小西酒造株式会社 公務員(陸上自衛隊)			
	○株式会社マザーズ	○株式会社松井設備備川工務店		
	○Le lien (ルリアン)			



那市にある岐阜県立恵那南高等学校を訪れました。「明鉄応援し隊」を立ち上げ、地域のローカル線（明鉄鉄道）を題材としたポスター制作に取り組みました。当日に至るまでの間、オンラインで何度かつながり、意見交流していくうちにポスターをとおりして何をどのようにアピールしたいのかを念入りに打ち合わせをしました。

活動一日目は、参加者全員でフィールドワークと撮影活動で明鉄鉄道五駅をまわり、その日のうちに選りすぐりのものを選定する作業をしました。二日目には三校あわせて約二十名の生徒が、報道関係者向けのプレゼンテーションを準備するグループとポスターに添えるキャッチコピーを考えるグループの二つに分かれ活動を進めました。すべての作業において生徒たちが主体的に進めることができ、とても意義深い内容となりました。

本校の参加生徒もポスターの撮影活動ではモデルを務め、キャッチコピー作りやプレゼンテーションの準備において



も大活躍してくれました。今回の活動に参加した生徒三名の感想をご紹介します。

☆三年 小部 達也

(被写体・プレゼンを担当)

「最初はみんな初対面だからどう馴染んだらいいかわからなくて、戸惑っていたけど一日目、二日目とみんな協力していくうちにだんだん一つにまとまって、とてもいい【明鉄応援し隊】になっていいポスターができてよかったです。また二日間で色々な技術を教わったから白山高校でもその技術を使っていいポスターを仕上げていきたい。恵那南、浜松学芸、白山の三校がこれからもその地域のよいところを活かしてポスターを作り、それを多くの人に知ってもらいたいと思った。」

浜松学芸の子たちを見て、自分もリーダーシップをつけていって周りをまとめられるようになりたいと思ったり、今回の初対面の人たちといい写真が撮れたことはとても自信になったからそれを白山高校で写真を撮るときには次は自分がまとめていって良いポスターを作りたいと思うようになった。」

☆三年 伊藤 百花

(被写体・キャッチコピー作り担当)

「先輩たちが名松線勝手に応援団をし

ているのをきっかけに、白山町で育ってきた私もこの町のために頑張ろうと思いついて参加しました。恵那は田園風景が素敵で自然豊かで川が流れているなど、白山町と似ていて安心感がありました。そしてそれは名松線とも共通点があり恵那の明鉄も利用者が少なく、ほとんど生徒しか乗ることのないという点も同じでした。明鉄の各駅で撮影を進めていく上で気が付いた点があります。それは、私たちが当たり前のように過ごしている日常の中には発見できていないだけで素敵な場所や見どころがあるということ。恵那南の生徒たちにとっては当たり前は浜松学芸と白山にとっては特別なものであり魅力がたくさんありました。そして、私は改めて白山町の魅力は何が小さい頃から白山に住んできた私にはわからない素敵な場所があるのではないかと今回感じることができました。」

☆三年 濱田 舞羽

(キャッチコピー作り)

「このプロジェクトに参加して普段学校で撮るときは周りの背景や立ち方、視線などにあまりこだわっていないことに気づきました。ですが今回参加したことで、夕日の中で撮ったり、立ち方を少し変えてみたり、視線まで変えることで一気に写真の印象が変わるとい

うことを知りました。なのでこれからの撮影にも、少しの工夫を生かして今までよりもさらにレベルアップしたポスターを自分たちで作れるように頑張っていきたいとおもいました。」

他校と交流してみても、普段は同じ学校の子しか話していませんのでよく人見知りをしてしまいました。一日目は特に緊張してしまっただけで前へ出る事があまり出来ませんでした。ですが、二日目は文を考える作業だったため、必然的に交流しなければならぬ状態でした。なので自分から進んで話しかけていくよう心がけました。その結果、いろいろと文のアイデアが増え、すぐポスターに合った文を作ることができました。お別れする際にはお互いが心を開けていたのですごく嬉しかったし、緊張など一切していなかったことにとても驚きを感じました。

ポスターのキャッチコピーを担当して、普段なかなか自分でキャッチコピーを考へることがなかったので難しく感じました。自分は良くても周りから見ると違ってたりしたので、言葉選びがとても重要だと気づきました。一言葉を消したり変えるだけで想像の幅が膨らむのでとても面白かったです。今回のようなキャッチコピーを自分たちの学校のポスターにも使用できるように頑張っていきたいなと思いました。」

